

カナダ銀行、利上げの可能性を示唆

7月12日のカナダ銀行(中央銀行)の政策金利決定について、市場の関心が高まっています。シニア・エコノミストのフランシス・ドナルドは、次回利上げは2017年内には行われないと主張でしたが、先週、見直しを変更しました。以下、その変更ポイントをご紹介します。



シニア・エコノミスト
フランシス・ドナルド

ポイント

- 7月12日の0.25%の政策金利引上げは、市場では既に相当程度織り込まれています。
- 実際に利上げが実施された場合には、2015年に特別対応として2度にわたって引き下げた0.5%分の回復という観点から、10月にも追加利上げが実施される可能性があります。
- 仮に、7月12日に利上げが見送られたとしても、10月利上げに向けた地ならしのメッセージが期待されます。ただし、何もメッセージが出されない場合には、市場の混乱につながるでしょう。

市場の利上げ予想の大きな変化は、カナダ経済の見通しの変化によるものではなく、カナダ銀行のスタンスの変化によるものです。このスタンスの変化の背景は以下の通りと考えられます。

- カナダ銀行は、金融の不安定化や不動産市況について実際のコメントよりも懸念している可能性があります。
- 他の中央銀行の強気のスタンスも、金利正常化の波に乗ることを後押ししている可能性があります。さらに重要なことは、大幅なカナダドル安を回避する狙いも考えられます。
- 米国の通商政策リスクに関する懸念が小さくなってきている可能性があります。NAFTAの再交渉が8月に始まりますが、米政府は全面見直しよりは、更新することに関心があるようにも言われています。
- カナダ銀行の内部分析結果がいくつかの重要な兆候を示したことにより、短期間で意思決定方法が大きく変わった可能性があります。カナダ銀行は、経済について2年程度先まで見通す必要性を強調し始めており、現在よりも将来のインフレ動向に注視することに軸足が置かれつつあるようです。

カナダ銀行がインフレや賃金上昇のリスクを強調し、経済の過熱感を示唆するようであれば、全体で50bps以上の利上げも考えられますが、継続的に低いインフレ率や賃金上昇率が最低水準にあること等を勘案すると、継続的な利上げ局面に入ることはならないのではないかと考えます。

私たちとしては、0.25%程度の利上げは、カナダの実態経済に対してネガティブなインパクトにはつながらないと考えています。ただし、市場を混乱させたり、カナダ経済の回復に水を差すような政策運営に対しては、カナダ銀行も慎重であるべきでしょう。

[当資料に関する留意事項]

- 当資料は、マニライフ・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」といいます)が、投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、特定の投資商品の推奨を目的としたものではありません。
- 当資料記載のデータや見通し等は、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報をもとに作成しておりますが、正確性、適時性を保証するものではありません。
- 当資料の内容およびコメントは資料作成時点における経済・市場環境等について当社の見解を記載したもので当該見解は予告なく変更される場合があり、将来の経済・市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 各指数に関する著作権等の知的財産、その他一切の権利は、各々の開発元または公表元に帰属します。
- 投資信託のお申込みの際は、必ず最新の投資信託説明書(交付目論見書)で商品内容をご確認の上、ご自身で投資のご判断をお願いいたします。
- 当資料に関する一切の権利は、引用部分を除き当社に属し、いかなる目的であれ当資料の一部または全部の無断での使用・複製はできません。